

馬頭琴とお話

劇団

そらのゆめ

# ひとりぼっちの白い子ラクダ

～モンゴル民話より～

馬頭琴・ホーミー＝岡林立哉  
語り＝川村ミチル



## 温かい響きと 優しい時間

「スーホの白い馬」で有名な馬頭琴。

馬のしっぽの毛の弦を持つその楽器は、風のように軽やかで、遊牧民の手の平のように乾いて、温かい音色を持っています。

モンゴルの奥地を旅して、遊牧民からたくさんの歌を教わった岡林立哉が、モンゴル西部・アルタイ山脈に伝わる神秘の声・ホーミー（1度に2つ以上の音が聞こえる歌唱法）と馬頭琴を奏でます。

そして、川村ミチルが、柔らかくも凛とした語りでモンゴルの大自然を浮かび上がらせてます。

温かな音色の中で、優しいひとときをお楽しみください。



原案＝モンゴル民話集（大学書林より）

潤色・演出＝ふじたあさや 衣裳・美術＝中矢恵子

制作＝劇団そらのゆめ

ラクダのヤリックは、遠いアラビアの国からの旅の途中、色の白いかわいい元気な男の子チャリックを生まれました。すくすくと育ったチャリックは、母さんのアラビアのお話を聞くのが大好き。けれどもある日、母さんは、アラビア商人に売られていってしまいます。

「母さんに会いたい」——チャリックは母さんを探しに、砂漠を走ります……

ふじたあさや 劇作家・演出家。昭和音楽

大学客員教授。代表作に『さんしょう太夫

（斉田戯曲賞受賞）』『しのだづま考（芸術祭賞受賞）』『ベッカコンおに（脚色）』等多数。

日本演劇会の中心として役員を歴任。

現在、アシテジ（世界児童青少年演

劇協会）世界理事。NPO法人

KAWASAKIアーツ理事長。

川崎市文化賞受賞。



劇団そらのゆめは 子どもたちが心も身体も健やかに育つ、平和な社会を願い、創立した専門劇団。常に現代を的確に捉えながら、子どもたちの心に響く演劇創造に力を尽くす。また、演劇表現という手法を用いて、社会のあらゆる人が豊かに生きる力を育むことに貢献する。夢や理想を描き、語り合えることを大切にしたいとの想いから、「劇団そらのゆめ」と名付けました。

Tel. (直通) 090-1759-7916

Tel&Fax. 052-773-7375

E-mail info@soranoyume.com

URL http://soranoyume.com

〒463-0035 名古屋市守山区森孝4丁目131